

からだ

東京医科大学大眼科の大野京子教授が登壇。小児の近視が世界的に急増している。スマートフォンやタブレットの普及による視力への影響が懸念されている。

小児の近視が急増

欠点

大音量による難聴

適切な使用法など専門家提言

スマホの光と影を知る

総務省の調査では日本人の6割が所有するスマートフォン。大音量による聴覚障害、近くで画面を見続けることによる近視への懸念がある。市民公開講座「スマートフォンの光と影」(日本学術会議主催)が開かれ、専門家がこの画面について講演。適切な使用法を守る一方で、補助員としてはさらなる活用、普及を図ることを提言した。

環境整備を

京都大耳鼻咽喉科・頭頸部外科の山本典生准教授は、新型コロナウイルス感染症の流行でマスクの装着が増え、口元が見えないことで聴覚障害者の6割が不便を感じているとの調査結果を基に、聴覚を補助するスマホの可能性に言及した。

山本さんは、スマホの普及と人工知能(AI)の進歩により、音声や文字に変換する機能が高度化できるとして、技術開発の一層の強化を提言。

諸外国の建物や交通機関では、スピーカーではなく電磁誘導の仕組みを使って、磁気コイル付きの補聴器や人工内耳に雑音のない音を伝える「磁気ループシステム」の導入が進んでいるとして、日本でも普及を早めるよう訴えた。

視覚障害者の社会参加の支援、情報支援を進めている公益社団法人「NEXT」が、スマートフォンやタブレットの普及による視力への影響が懸念されていると、話した。

利点

聴覚、視覚障害者に役立つ補助ツール

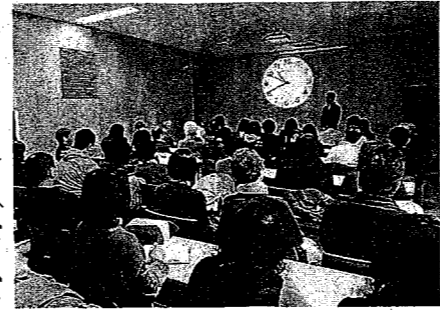
スマートフォンの光と影

注意点	可能性
<ul style="list-style-type: none"> 80~85デシベルより大きな音は悪影響 イヤホンは1日1時間まで 使用後は耳を休める 睡眠も大事、騒音には耳栓 	<ul style="list-style-type: none"> マスク使用で不便6割 スマホとAIで音声の文字変換機能が高度化 雑音のない磁気ループシステムの普及
<ul style="list-style-type: none"> 小児の近視が世界で急増 スマホは人の目が経験したことのない強い刺激 近視のほか、斜視の危険も 保護者が使用時間管理を 	<ul style="list-style-type: none"> 文字拡大や読み上げ機能が既に実装 色調補正など多様なアプリ 音声入力や移動と情報アクセスが容易に

(日本学術会議主催の市民公開講座の講演から作成)

聴覚

視覚



ネクストビジョンが開発した視覚障害者向けのスマホ活用に関する情報交流会。2018年12月、東京都内(三宅塚氏提供)

VISION(ネクストビジョン)の理事で眼科医の三宅塚さんは、文字の拡大や読み上げ、明るく大きな撮影などスマホに実装されているツールの有用性を解説。色覚障害の色の見え方を画面で再現し、障害がない人との共通理解を深める機能など多様なアプリが開発されていることを紹介した。

また、音声入力と日本語変換の進歩の実例として動画を再生。声で指示するだけでアラーム設定や天気の確認、メッセージ送信、日程管理、飲食店を探して道順を調べるなどがわずか3分で可能なことを示した。

三宅さんは「スマホは、視覚障害者の『移動と情報アクセスの困難を解消し、人とのつながりを広げるツールになり得る』と強調した。

障害者の生活を補助する新しい支援アプリについては、東京都障害者IT地域支援センターの「やくだち情報」のページに掲載されている。

【問い】2年ほど前から糖尿病の治療をしています。今年5月には自己免疫性膵炎、胆管閉塞でステント手術をして退院しましたが、ステロイド治療の副作用のためいろんな薬を飲んでいますが、自己免疫性膵炎について教えてください。(81歳、男性)

自己免疫性膵炎

KARTE カルテ Q&A



橋本学医師

【答え】自己免疫性膵炎(AIP)とは、免疫に異常が起きて発症する膵臓炎であり、抗体の一種、IgG4が関与する「I型AIP」と、白血球の一つである好中球が関与する「2型AIP」に分類されます。このうち、国内では95~98%を占める1型AIPについて解説します。

疫学的には60代を中心に、性別では2対1~5対1の割合で、男性に多くみられます。年齢

問患者数は、2011年の調査で10万人中4.6人で、増加傾向です。現在はIgG4に関連する「膵病変」と考えられます。血中のIgG4値が高く、硬化性胆管炎、涙腺・唾液腺炎、後腹膜線維症など全身の「膵外病変」を伴います。

AIPの診断基準に沿って、血液検査、画像検査、病理学的検査をします。腹や背中の痛み、胆管が詰まって皮膚や粘膜が黄色くなる「閉塞性黄疸」の発症や、検診、糖尿病の精査によって診断されることもあります。

ステロイド治療がよく効くことで、診断されることもありますが、

は早期に減量、中止した上で、診断を再検討する必要があります。その後1~2週間ごとに減量し、2~3カ月後に一定量になるまで徐々に減らします。

治療期間は3年が一つの目安という報告がありますが、治療中に症状が悪化することで、ステロイド服用が長期間必要となる症例も多いです。IgG4関連の膵外病変や膵がんを併発する報告もあり、定期的な画像・血液の検査が必要です。

(兵庫県医師会、橋本学II神戸市垂水区、神戸掖済会病院消化器内科医長)

◇第2~4木曜に掲載します。

相談したい具体的な症状をお寄せください。採用分について医師が紙上でお答えします。〒650-8571 神戸新聞社報道部医療・科学チーム。下記のファクス番号、メールアドレスでも受け付けます。住所、名前、年齢、電話番号をお忘れなく。

神戸新聞報道部医療・科学チーム FAX 078.360.0629 iryou@kobe-np.co.jp

【日本オストミ一協会兵庫支部行事】対象は人工肛門や人工膀胱(ぼうこう)の保有者(オストメイト)と家族。参加無料。同支部☎078・371・1830(ファクス兼用)または高橋宣光支部長☎090・4295・4957。詳細は次の通り。

<人工膀胱オンライン講演会> 11日13時半~16時、神戸市立医療センター中央市民病院の医師が「ロボットによる膀胱全摘術」、神戸大病院国際がん医療・研究センターの皮膚・排せつケア認定看護師が「ウロストミー器具交換のコツと器具のいろいろ」と題してオンラインで講演する。事前申し込みが必要。同時刻に神戸市中央区橋通3、市立総合福祉センター会議室で放映する。

<皮膚・排せつケア認定看護師によるストーマ相談室> 8日13~16時、尼崎市水堂町3、ミヤノ健康ショップモイラン阪神営業所3階(阪急武庫之荘駅から南へ徒歩15分)▽9日13~16時、姫路市三左衛門堀西の町、ミヤノ健康シ

ップモイラン姫路店(姫路市役所前バス停から北東へ3分)▽20日13~16時、神戸市中央区楠町、日本オストミ一協会兵庫支部相談室(ミヤノ医療器本社2階、地下鉄大倉山駅から西へ徒歩約3分)。いずれも受け付け順で個別相談に応じる。